

中部ESD拠点運営委員会（第22回）議事メモ

日 時 平成21年11月12日（木）18時30分～20時30分

場 所 中部大学名古屋キャンパス（8-C号室）

出席者 飯吉代表、竹内委員長、寺井、羽後、高山、武者小路の各委員

事務局 古澤、酒井、岡本

議 事

1. 報告事項

1) 第2回アジア太平洋 RCE 会議について

古澤事務局員より、インドで開催された第2回アジア太平洋RCE会議の報告が下記の通り行われた。

- ・モントリオール会議のフォローアップとして、アジア太平洋の幹事会にRCE中部（当面は古澤事務局員）が参加することが決まった。
- ・生物多様性の分科会で、サイバー対話に加え、共同ポスターの作成と、事例集作成のプロジェクトを開始することが決まった。
- ・RCEトンヨンは2012年に完成予定のRCEセンターを建設予定で、各国のRCEからアイデアを募り、宿泊施設や出展ゾーンのデザインを行うことが提案された。

2) 助成金申請について（モリコロ基金・トヨタ財団）

古澤事務局員より、10月31日〆切りのモリコロ基金と11月9日〆切りのトヨタ財団の助成金に応募したことが報告された。

3) 世界平和アピール7人委員会について

武者小路委員より11月7日に開催され、中部ESD拠点が名義後援を行った「世界平和アピール7人委員会」のイベントが無事終了したことが報告された。

2. 第3回中部ESD拠点総会&フォーラムについて

1) 第3回中部ESD拠点総会について

古澤事務局員より、第3回中部ESD拠点総会次第案、総会に提出する2008年度活動報告案、収支決算書（2008年4月～2009年3月）、今後の活動計画案、が提出された。
総会次第案は以下の通りである。

日 時：12月5日、10:00～11:00

場 所：三重大学総合研究棟メディアホール

○ 開会挨拶

○ 活動方向について

- 収支決算について
- 今後の活動計画について
- 組織について
 - 1) 中部ESD拠点協議会参加団体について
 - 2) 中部ESD拠点運営委員会委員の再任について

以上の案を受け種々議論が行われ、以下のように措置することとした。

- ・総会で提出する昨年度の4つのプロジェクトの活動報告は、第2次事業年度活動報告（2008年12月～2009年11月）として各プロジェクトリーダーが記述する。
- ・「伊勢・三河湾流域圏マイナス80計画」プロジェクトは、「地球憲章」プロジェクトに変更する。
- ・「生物多様性COP10への貢献事業」プロジェクトは、「サイバー対話」、「COP10での国内RCEとの連携によるサイドイベントの企画」に関しての内容を主に報告する。
- ・4つのプロジェクト以外に、今年度開催されたRCE世界大会（モンテリオール）で提出したAnnual Report 提出の報告をする。
- ・第3次事業年度（2009年12月～2010年11月？）の活動計画は、「生物多様性COP10への貢献事業」プロジェクトと、モリコロ基金・トヨタ財団の活動支援申請書で記述した内容（「伊勢・三河湾流域圏プロジェクト」、「若者がつくる伊勢・三河湾流域圏持続可能な未来戦略」）、「表彰基準づくり」プロジェクト（リーダー：竹内委員長）を中心に作成する。各プロジェクトリーダーが記述する。
- ・「伊勢湾再生行動計画」のモニタリングと連携事業は、「伊勢・三河湾流域圏プロジェクト」の中で記述する。
- ・「生物多様性COP10への貢献事業」プロジェクトはA4用紙一枚、その他のプロジェクトはA4用紙半分で記述する。
- ・活動報告・活動計画は11月21日（土）〆切までに各プロジェクトリーダーがメールで事務局に送信する。

2) 第3回中部ESDフォーラムについて

高山委員より、第3回中部ESD拠点フォーラムについて、以下のような企画案が示された。

日 時：12月5日（土）、11:00～16:30

場 所：三重大学総合研究棟メディアホール

集会全体のコンセプト：

これまでの社会が持続不可能な社会であることがだれの目にもはっきり見えてきた。求められる転換に向けて新しい視点、仕組みが求められている時代に「ESD、流域思考、生物多様性」は一体不可分な概念であろう。これらの概念につながる多様な取り組みに再度目を向け、「すでに始まっている未来」を確認する機会とする。

午前の部

(10:00～11:00 総会)

11:00～12:30 伊勢湾流域をめぐるシンポジウム フォーラムパート1

午後の部

13:30～16:30 経験交流会もしくはE S Dを理解するワークショップ フォーラムパート2

懇親会

17:30～19:30 学内のレストランで懇親会

フォーラムパート1案

テーマ：「連携と協働で取り組む地域再生・自然再生」

コーディネーター：高山

パネラー：①英虞湾自然再生協議会（三重県）、②名古屋市水循環政策と環境団体との協働（愛知県）、③（駒宮氏のケースから、岐阜県）、パネラーからは「どんな活動を進めているのか、どんな課題があるのか、中身のある連携と協働を進めるために気をつけていること、今後の作戦、想い、提案」等を語っていただき、ともすると形式的な連携と協働に魂を入れるべく議論したい。

フォーラムパート2

テーマ：「多様な団体の発掘と交流」

コーディネーター：羽後

これまで中部E S D拠点フォーラムに報告されていない団体で有意義で多様なE S D的活動をされている団体を掘り起こし（会員団体も含めて）、報告していただき、依頼のプロセス、フォーラムの報告としてE S D運動の意義を理解していただく取り組みを行う。また、それらの団体と交流を深める。

一般団体：3～6団体、学生団体：3～6団体、合わせて、9団体

各団体12、3分の報告+確認で2時間+1時間のワークショップ的なもので交流する。

報告団体には交通費を出す。

学生団体の報告は初めての企画なので力を入れる。

以上の案を受け、フォーラムパート1、パート2で依頼する団体・個人は以下のようにとした。

[テーマシンポジウム「連携と協働で取り組む地域再生・自然再生」]

フォーラムパート1でのパネラーは、以下の団体・個人にお願いする。

- ・英虞湾自然再生協議会 → 承諾済
- ・駒宮氏 → 承諾済
- ・リユースステーション（中部リサイクル） → 竹内委員長依頼する

[対話の集い「若者と語る持続可能な未来」]

フォーラムパート2での発表団体は、以下の団体・個人にお願いする。

- ・中部学生ベンチャーネットワーク → 高山委員が依頼する。
- ・森の健康診断 → 承諾
- ・名チャリ → 承諾
- ・三重大の学生（彼女の最近の活動と三重大 ISO の活動の報告） → 高山委員が依頼

する。

- ・キャンパスマネーを活発にやっている大学（愛知淑徳大学・名古屋学院大学）→ 古澤事務局員が依頼する。
- ・ふゆみずたんぼ → 古澤事務局員が依頼する。
- ・ユネスコ名古屋 → 羽後委員が依頼する。
- ・鳥羽の江崎氏 → 高山委員が依頼する。
- ・高校生と一緒に爬虫類の調査やっているヤベ氏 → 寺井委員が依頼する。

また、フォーラム全体としては、以下のように措置することとした。

- ・依頼する団体・個人の意志は、各担当者がメールで報告し、高山委員がまとめる。
- ・フォーラムでの基調講演は行わない。
- ・ランチは簡単なものを買ってそろえる。
- ・懇親会は生協もしくは食堂を使用する
- ・懇親会参加費用は 3,000 円程度とする。
- ・協議会参加団体にはメールで参加申し込み書を送る。
- ・集会のコンセプト
 - ：今日、社会の持続可能性はさまざまな側面から明らかになってきた。こうした中、求められる転換に向けて、新しい視点や仕組みが模索されている時代に「ESD（持続可能な発展のための教育）」、「流域思考」、あるいは「生物多様性」は、ますます重要な概念になってきている。これらの概念につながる多様な取り組みに再度目を向け、「すでに始まっている未来」を確認する機会とする。
- ・フォーラムパート1の名称・テーマ
 - ：シンポジウム テーマ「連携と協働で取り組む地域再生・自然再生」
- ・フォーラムパート2のテーマ
 - ：対話の集い テーマ「若者と語る持続可能な未来」

3. プロジェクト推進の進捗について

1) 伊勢・三河湾流域圏プロジェクト（伊勢・三河湾流域圏フォーラム案）

羽後委員より、第3回伊勢・三河湾流域圏ESDフォーラムについて、以下のような企画案が示された。

第3回伊勢・三河湾流域圏ESDフォーラム

ー生命の多様性と文化の多様性：先住民と地域住民の対話ー

日 時：2010年1月24日（日）9:30-17:30

場 所：中部大学 春日井キャンパス 50-51 号館（愛知県春日井市松本町 1200）

主 催：中部ESD拠点推進会議、中部大学ESD研究会

共 催：中部ESD拠点協議会、CBD市民ネットワーク生命流域作業部会、地球の未来、名古屋大学ESDワーキンググループ、愛知大学三遠南信地域連携センター、伊勢三河湾流域ネットワーク

目 的：今年は、特に2010年COP10に向けての政策提言につなげる。

仮タイトル：先住民と地域の人々が出会い、親しみ、学び合う、「先住民の知恵と多様な生

命のつながり、生命と文化の多様性」

午前中 秋辺日出男 阿寒アイヌ民族村専務理事、ほか
午後 ① 伊勢三河湾流域圏のESDグッドプラクティスの報告
午後 ② サイバー対話への意見交換
まとめ 全体会

2) COP10 支援活動

武者小路委員より、サイバー対話に関して以下のような現況報告がされた。

- ・目下、中部ESD拠点と COP10 市民ネットワークの生命流域部会の協力によって愛知名古屋国際サイバー対話を進めるために、「サイバー対話企画会議」をつくり、将来、市民ネットワークの作業部会とする方向で話し合いを進めている。
- ・11月9日、締約国会議事務局によって、愛知名古屋国際電子会議（ANIEC2010）が開始された。締約国政府、専門家、市民運動などが参加する同会議は www.cbd.int/aniec2010 をウェブサイトにして、英語が主言語で他に独・仏・露・西・葡・アラビア語・中国語・日本語で電子会議、生物多様性の意味、重要性、気候変動との関係、締約国政府への提案、COP10 成功の条件について議論する。そして、この議論にもとづいて、提言を2010年10月までにまとめる。
- ・「サイバー対話」から、駒宮氏の原案を英訳したポスト2010年ターゲット文書の「前文案」を投稿した。その際に、サイバー対話の名称を、CBD/COP10 Aichi Nagoya International Cyber Dialogue（略称 ANIC Dialogue）として、ANIEC2010 との協力と化した。
- ・締約国会議ジョグラフ事務局長の依頼に基づいて、日本語での電子会議発言を英語での総会につなぐメッセージの選択・要約をひきうけたが、日英翻訳については費用がかかるので交渉することにした。
- ・サイバー対話企画会議は、サイバー対話電子会議をつなぎながら、全体作業を担当するとともに、サイバー対話の主題、哲学、エネルギー、里山、女性、先住民族等のテーマを別の担当とその連絡をはかることになった。そして予定通り、日本での議論を ESD/RCE 拠点ネットワークを支えにして続行することを決定した。
- ・電子会議への協力では、日本語での発言をもとにした「部会」をまとめて、英語の本会議につなぐほか、テーマ別に国際対話の中で出てきた電子会議の五つの質問に答える発言を電子会議に発表する。
- ・サイバー対話の目指す成果は二つ、対話をまとめた提言と、その裏付けともなる事例集を2010年10月までに作成する。提言については、電子会議からの提言づくりにも参加するが、締約国政府はじめ複雑な利害関係の影響で、提言は消極的・形式的になるおそれもあり、サイバー対話で、より大胆な提言をするために、日本国内でも国際的にも、高い問題関心をもつ参加者を各拠点に紹介してもらって、電子会議とは別に上記の各テーマごとに対話を進める。

以上